



GROWTH TOKYO

2026年2月13日

各 位

会 社 名 株式会社環境フレンドリーホールディングス
代表者名 代表取締役社長 車 陸昭
(コード: 3777、東証グロース)
問合せ先 管理部長 中村 尚美
(TEL. 03-6261-0081)

連結業績の前期実績値との差異に関するお知らせ

本日付「2025年12月期決算短信〔日本基準〕(連結)」で公表した2025年12月期(2025年1月1日～2025年12月31日)の連結業績につきまして、前期実績値(2024年12月期(2024年1月1日～2024年12月31日))との間に差異が生じましたので、下記のとおりお知らせいたします。

なお、当社は当該期間に係る業績予想を公表していないため、増減につきましては実績値との比較になっております。

記

1. 2025年12月期連結業績の前期実績との差異

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に帰属する当期純利益	1 株 当 た り 当 期 純 利 益
前 期 実 繢 値 (A) (2024 年 12 月 期)	百万円 17,237	百万円 △53	百万円 △69	百万円 △154	円 錢 △0.54
当 期 連 結 実 繢 (B)	1,371	106	105	△3	△0.01
増 減 額 (B - A)	△15,865	160	175	151	
増 減 率 (%)	△92.0	—	—	—	

2. 差異の理由

2025年12月期の連結業績予想については、既存事業及び新規事業において、計画の実現可能性を含めて不透明な状況が続いており、業績予想の合理的な算定が困難であるため、「未定」としておりました。

前連結会計年度においては、リユース事業におけるiPhoneやゲーム機器の買取・販売等により約159億円の売上高を計上しておりましたが、当該事業は消費税還付制度を活用したビジネスモデルである中、当連結会計年度において為替相場の大幅な変動やiPhone市場の需給環境の変化、政策変更リスクの高まり、ならびに消費税還付時期の遅延に伴うキャッシュ・フロー負担の増大等によりリスク・リターンのバランスが悪化したことから、資本効率および財務の安定性を重視する観点のもとiPhoneの買取・販売を中止し収益構造の転換を図った結果、売上高は前期実績を大幅に下回ることとなりました。

一方で、収益基盤の強化および高単価商材へのポートフォリオ拡張を目的として、金・プラチナ等の貴金属類(ジュエリー、工業品等)を対象とした出張買取・販売事業を開始したこと、新たに出資した太陽光発電所の売電収入やアセットマネジメント事業の受託が拡大したこと等により、営業利益、経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益は、いずれも前期実績から改善いたしました。

なお、連結業績及びセグメント別の業績については、本日開示された「2025年12月期決算短信〔日本基準〕(連結)」をご参照ください。

以 上